

シラバス

指定番号 : 152
商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<p>これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える生活援助中心型のケアの実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事をおこなうのか、具体的なイメージを持って実感できるようにする。</p> <p>研修過程全体の構成と各研修科目相互の関連性をイメージできるようにする。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	1	1		<p><講義内容></p> <p>(1) 多様なサービスの理解</p> <p>・介護保険サービス (在宅・施設) 介護保険外サービス</p>
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	1	1		<p><講義内容></p> <p>(1) 居宅の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</p> <p>(2) 居宅の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ</p> <p>(3) 生活援助中心型の訪問介護で行う業務の範囲</p>
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	2	2		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を具体的な事例を示しながら気づいてもらう。利用者の自立支援のための、残存能力を効果的に活用しての重度化の防止や遅延化を行うケアについて理解してもらう。利用者の尊厳や高齢者虐待について理解してもらう。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	2	2		<講義内容> (1) 人権と尊厳の保持 (2) ICF (3) QOL (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 自立に向けた介護	3	3		<講義内容> (1) 自立支援 (2) 介護予防 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③ 人権啓発に係る基礎知識	1	1		<講義内容> ・人権について ・人権への取り組み
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクその対応策のうち重要なものを理解する。介護を必要としている人の個性を理解する。介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、他職種との連携を理解する。介護職の職業倫理の重要性を理解する。介護職が直面する事故や感染等のリスクを認識する。介護職が被りやすい健康障がいやストレスに対する健康管理やストレスマネジメントのあり方等を理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と他職種との連携	1	1		<講義内容> (1) 介護環境の特徴の理解 ・地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ・自立した生活を支えるための援助 (3) 介護に関わる職種 ・他職種の理解
② 介護職の職業倫理	1	1		<講義内容> (1) 職業倫理 ・介護の倫理
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1		<講義内容> (1) 介護における安全の確保 ・サービス提供と安全管理体制 (2) 事故予防・安全対策 ・リスクマネジメント (3) 感染対策 ・感染の原因と経路について
④ 介護職の安全	1	1		<講義内容> (1) 健康管理とストレスマネジメント ・介護職員のこころとからだの健康管理
⑤				
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	1	1		<講義内容> (1) 介護保険制度創設の背景と目的および動向 (2) 介護保険制度の仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	1	1		<講義内容> 訪問看護
③ 障がい福祉制度及びその他制度	1	1		<講義内容> (1) 障がい福祉制度の理念 (2) 障がい福祉制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要
④				
⑤				
(合計時間数)	3	3		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められている。共感、受容、傾聴的態度といった基本的なコミュニケーション上のポイントおよび留意点を踏まえて相手の心身機能に合わせた配慮が必要なことを気づいてもらう。家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。チームケアにおけるコミュニケーションの重要性について理解してもらう。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法。 ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況に応じたコミュニケーション技術 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 (3) コミュニケーションをうながす環境 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(6) 老化と認知症の理解			
指導目標	<p>加齢・高齢化に伴う心身の変化や特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化や特徴について理解してもらう。</p> <p>高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて理解してもらう。</p> <p>認知症の中核症状と行動・心理症状等の基本的特性を理解してもらう。</p> <p>認知症ケアの理念や考え方について理解してもらう。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	2	2		<p><講義内容></p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>・知覚、感覚、注意力、記憶、知能、感情、性格の変化</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p>
② 高齢者と健康	1	1		<p><講義内容></p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>・機能の変化と病気、日常生活への影響</p> <p>(3) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p>
③ 認知症を取り巻く状況	2	2		<p><講義内容></p> <p>(1) パーソンセンタードケア</p> <p>(2) 認知症ケアの視点</p> <p><演習の実施方法></p> <p>・事例を基にしてグループでディスカッションをする。</p>
④ 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	1		<p><講義内容></p> <p>(1) 認知症の概念</p> <p>・認知症と物忘れ</p> <p>(2) 認知症の原因疾患とその病態</p> <p>・認知症の種類と原因</p>
⑤ 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	2		<p><講義内容></p> <p>(1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴</p> <p>・行動・心理症状の具体的対応、不適切なケア</p> <p>(2) 認知症の利用者への対応</p> <p>・日常生活支援と環境整備</p> <p><演習の実施方法></p> <p>・事例を基にしてグループでディスカッションをする。</p>
⑥ 家族への支援	1	1		<p><講義内容></p> <p>・介護負担の軽減 (レスパイトケア)</p> <p>・認知症の受容過程での援助</p>

(合計時間数)	9	9		
---------	---	---	--	--

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(
(別添2-2)

令和2年5月1日現在

シラバス

指定番号 : 152
商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(7) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障害福祉の基本的考え方について理解する。 各障がいの内容・特徴および障がいに応じた社会支援について理解する。 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 障がいの概念と ICF ・ ICFの考え方 (2) 障がい者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーション
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 身体障がい (2) 知的障がい (3) 精神障がい (4) その他心理の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		<講義内容> (1) 家族への支援 ・ 障がいの理解・障がいの受容支援 ・ 介護負担の軽減
④				
⑤				
(合計時間数)	3	3		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152

商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(8) ころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。生活援助中心型サービスの安全な提供方法等を理解し、一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の存在・地域等での生活を支えるための介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	2		<講義内容> (1) 介護の基本的な考え方 ・理論と法的根拠に基づく介護
② 介護に関するころのしくみの基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 感情と意欲の基礎的知識 (2) 老化や障がいを受け入れる適応行動
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 人体の各部の名称とはたらきの基礎知識 (2) 運動動作に関する基礎知識 ・身体の動きの基本 ・ボディメカニズムの原則 (3) 神経系に関するからだのしくみ (4) 利用者の様子の違いに気づく視点
④ 生活と家事	5	5		<講義内容> (1) 家事と生活の理解 (2) 家事援助に関する基礎知識と生活支援 <演習> ・調理や衣類の洗い方
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	3		<講義内容> (1) 快適な居住環境に関する基礎知識 (2) 福祉用具の活用 (3) 家庭内に多い事故 <演習> ・トイレや台所の掃除
⑥ 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4		<講義内容> (1) 移動・移乗に関する基礎知識 ・体位・姿勢の介護のポイント (2) 移動・移乗に関する用具とその活用方法 (3) 移動と社会参加 <実習> ・ベッドから車いすへの移乗 ・車いすや歩行補助具の活用
⑦ 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4		<講義内容> (1) 食事に関する基礎知識 (2) 食事の介助

				<ul style="list-style-type: none"> ・食事の介護のポイント (3) 口腔ケアの支援技術 ・口腔ケアの基礎知識 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食前、食中、食後の注意点を実践で身につける ・口腔ケア
⑧ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	1	1		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 睡眠に関する基礎知識 ・睡眠の意味と仕組み (2) 睡眠の介護 ・環境整備と睡眠に関連した用具 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝具の整え方
⑨ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	1	1		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 終末期ケアに関する基礎知識 ・終末期のところとからだのしくみ (2) 高齢者の死に至る過程 (3) 看取りの介護 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平穏な暮らしを継続するための、食事の工夫や、事故や褥瘡の予防
⑩ 介護過程の基礎的理解	2	2		<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活支援技術演習 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護課程とチームアプローチ
(合計時間数)	24	24		

使用する機器・備品等	(別添2-6) 実技演習使用備品一覧表に記載した備品を使用する。
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(9) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返りながら、研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを講師とともに振り返る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づく介護（利用者の状態に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）についての要点を振り返る。 ・介護職として今後どのような仕事を行うのかを具体的にイメージするようにする。
② 就業への備えと研修終了後における実例	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・就業への備えと研修終了後における継続的な研修を意識づける。
③				
④				
(合計時間数)	2	2		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。